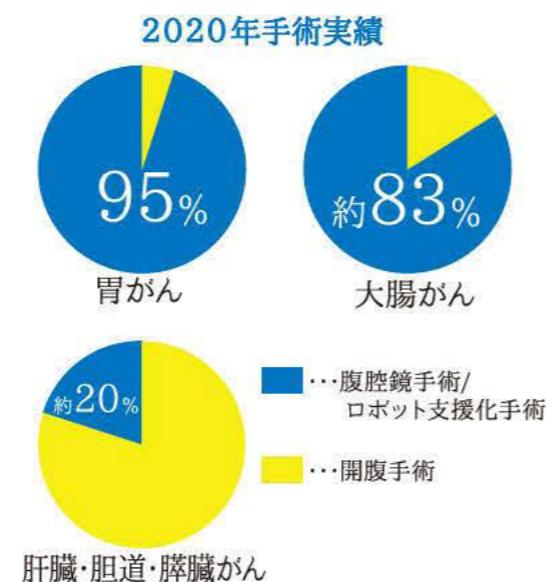




外科では、腹部のほぼ全ての臓器の疾患に対応。

当院外科では、食道・胃・小腸・大腸・肛門までの消化管や、肝臓・胆道・脾臓などの実質臓器における疾患、また腹膜や消化器臓器以外の病変（子宮・膀胱などの骨盤内臓器に浸潤する消化器病変）など、腹腔内のはぼすべての臓器の疾患に対応しています。

手術による身体的負担を軽くするために、当科では鏡視下手術（腹腔鏡、胸腔鏡）やロボット支援下手術を積極的に導入しています。2020年のロボット支援下手術／腹腔鏡下手術が占める割合は、胃がんで95%、大腸がんで82.7%、肝臓・胆道・脾臓がんで20.3%です。



ロボット支援下手術

2019年6月から直腸がん、同年11月から胃がんに対してロボット支援下手術を開始以来、着々と手術件数は増加しています。当院のロボットは最新型の「da Vinci Xi」です。

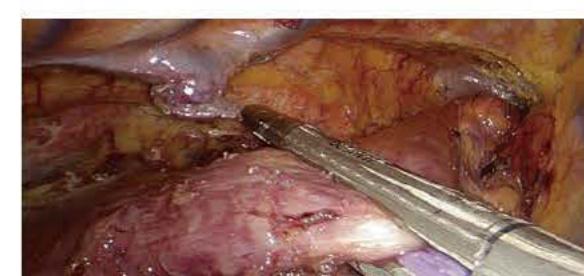
ロボット手術によって従来の腹腔鏡手術に比べより精密に手術を行うことができます。3Dハイビジョンカメラによる立体的拡大画像により、がんの根治性を損なうことなく、術後の生活に必要な神経や周囲臓器を温存することができます。

またロボットの多関節機能により、骨盤深部や食道胃接合部の腫瘍など、狭い空間での操作でより正確な切除が可能となります。

ダヴィンチ・サージカルシステム認定医/ 日本内視鏡外科学会 技術認定医

当院ではロボット支援下手術を行う資格を持った医師が4名（川崎、土橋、庾、豊田）おり、そのうち川崎は他の医師を指導できる資格（プロクター）を有しています。

また、鏡視下手術を安全かつ適切に施行する技術を有する内視鏡外科学会技術認定取得者が6名在籍しており、患者さんに安心安全で、質の高い外科治療を提供しています。



保険適用と今後について

ロボット支援下手術（食道がん、胃がん、直腸がん、脾臓がん）は保険適応されており、患者さんに追加の費用を負担して頂くことはありません。現在、外科では直腸がん、胃がんに対しロボット手術を行っていますが、今後は脾臓など、他の臓器にも拡大していく予定です。

腹臥位胸腔鏡下食道切除術

食道がん手術は身体に対する負担が大きいため、積極的に胸腔鏡下手術を行っています。胸腔鏡下手術は胸に数か所の小さな孔を開け、テレビモニターを見ながら手術を行います。胸を開く開胸手術と比べキズが小さく、手術後の回復が早いのが特長です。

2018年から大学病院と連携し、腹臥位（うつぶせ）胸腔鏡下手術を導入しています。従来は側臥位（横向きに寝ている状態）で行っていましたが、腹臥位にすることで、より安全で確実な手術が可能となります。そのメリットは側臥位で必須だった肺の圧迫による視野確保が不要で手術操作が容易になること、横隔膜が平低化し、血液や浸出液が術野に貯留しないため視野が極めて良好なこと、人工気胸の陽圧により出血量が減少することなどが挙げられます。

消化管外科 部長 土橋 洋史

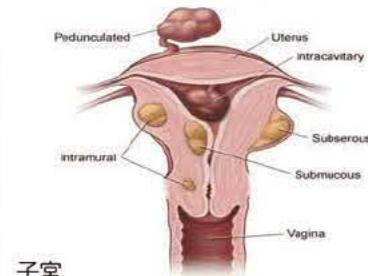
産婦人科は、負担の少ない
低侵襲手術を目指します。

産婦人科は、妊娠、出産をおこなう産科と、子宮、卵巣の病気を治療する婦人科の2つを診療しています。

私は婦人科を専門としており、小さな傷で手術を行う、低侵襲手術を行っています。

子宮筋腫(図1)は、成人女性の3割がかかる病気で、時に月経痛や、貧血など、日常生活に支障を及ぼす症状を起こします。

▼図1:子宮筋腫のできるところ



産婦人科 部長

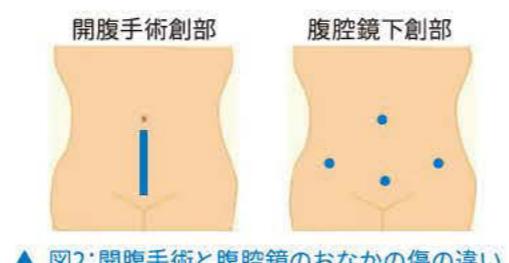
みやたけ たかし
宮武 崇

大阪大学大学院医学系
研究科へ入学後、コロラ
ド大学附属デンバサイ
エンスセンターへ入職。
帰国後、大学院を卒業し
市立貝塚病院・大阪警
察病院で副部長を勤め、当院では婦人科腫瘍
のスペシャリストとして
活躍中です。

女性の3割が抱える疾患…その負担を軽減したい

子宮筋腫の手術では腹腔鏡で小さな穴をおなかにあけて行われることが主となっており、従来の開腹手術に比べ、傷が小さく、回復が早くなりました(図2)。また、子宮内の筋腫には、おなかを全く切らない、子宮鏡下切除も行われています(図3)。

このような低侵襲手術はますます発展しており、腹腔鏡に代わって悪性の癌に対し、手術支援ロボットを用いた低侵襲手術を行うことも可能になっており、当科でも今後行う準備を進めております。婦人科では、このような低侵襲手術を発展させ、さらに女性の負担を軽減した手術を目指してまいります。



ついに!

2021.03～呼吸器外科においても

「da Vinci Xi」を導入

肺癌(原発性・転移性)と縦隔腫瘍(良性・悪性)に



ダヴィンチ手術とは

ダヴィンチとは、1990年代にアメリカで開発された手術支援ロボットです。

このロボットを利用しておこなう手術は、当院で従来行われていた胸腔鏡手術の利点である皮膚切開の縮小化・胸壁へのダメージ低下・術後回復の早さに加え、さらなる鮮明な立体映像・術野を10倍拡大・人の手以上の器用さ・手ぶれ補正・術後疼痛の軽減など、その「低侵襲性」を高めた、最先端の手術となります。

呼吸器療域での適応について

呼吸器外科領域で代表的な腫瘍性疾患である、肺癌(原発性・転移性)と縦隔腫瘍(良性・悪性)に対して行われます。その操作性や視野の良さから、あらゆる局面で適応拡大が報告され、その将来性が叫ばれています。

もちろん、全てが置き換わることはありませ
んが、常に患者さんへの低侵襲性を意識しつ
つ、活用ていきたいと考えています。

手術時間や入院期間

従来の胸腔鏡手術と遜色ありません。手術時間は全身麻酔の時間も含めて4時間程度になります。術後の合併症率も良好であり、術後1週間で退院の目処がついていることがほとんどです。

呼吸器外科 医長
原 幹太朗

呼吸器領域に対する
ダヴィンチ手術を執
刀できる資格を取
得。



ひらつか整形外科医院

整形外科・ リハビリテーション科



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	●	●	●	●	●	●	/
13:30~15:30	※	/	※	/	※	/	/
16:00~19:00	●	●	●	/	●	/	/

*時間帯のみ予約制

休診日：木曜と土曜の午後・日曜・祝日

住所：大阪府堺市南区原山台2-2-1
トナリエ梅・美木多1F

電話：072-247-4133

ホームページ：<https://www.hiratsuka-seikei.jp/>

新規登録医

西 区	うえむら耳鼻咽喉科 きのうち腎泌尿器科 よしだ内科クリニック 泉ヶ丘皮フ科クリニック もりい眼科クリニック ひふみるクリニック	植村 剛 先生 木内 利郎先生 吉田 修 先生 岸田 大 先生 森井 智也先生 中林 洋平先生
-----	--	--

北 区	だんホームクリニック	段 俊行 先生
東 区	フラワーベル クリニック	柴田 和男 先生
富田林市	おき泌尿器科 クリニック	沖 貴士 先生
大阪狭山市	みさこ耳鼻咽喉科 クリニック	西原 美沙子 先生
	平林小児科	平林 博和 先生

登録医429件

Topics

第23回日本医療マネジメント学会 学術総会を終えて

7.15~30
オンデマンド
配信

この度、第23回日本医療マネジメント学会学術総会の会長を務めさせていただきました。

ところが、ご存じのように、当初会場として予定していた大阪国際会議場が国のワクチン大規模接種会場になり、急遽ベルランド看護助産大学校の講堂を基地局にし、6月25日~26日の二日間にわたりZOOMでセッション動画収録しました。また、招待講演の青山学院大学の原監督と橋下元大阪府知事には、ベルランド総合病院にお越しいただきAIFホールでビデオ収録しました。

その他、特別講演では厚労省の迫井医政局長にZOOM参加いただきました。このように、総会はweb開催で、7月15日~7月30日の間オンデマンド配信いたしました。

応募いただいた791演題のうち、コロナ関連が105題と多く、全国を吹き荒れているコロナ禍の中、地域医療を死守されていると痛感させられた学会でした。

社会医療法人 生長会 理事長 亀山 雅男



COVID-19 ぶち コラム

コロナと教育とオンライン



新型コロナウイルスに振り回され、今までの当然が当然でなくなったことに不安を感じることが多々あります。人と人との繋がりを疎かにすべきである、この日常環境で私が最も不安を感じるのは「教育」についてです。ここ数年来、私は新潟大学国際交流プログラムの一環としてミャンマーの留学生に、2回の胎児生理学の講義を行ってきました。

昨年は感染蔓延のため、本年も留学は無理でしたが講義だけはZoomで2021年2月3日に開催することとなりました。先に講演を収録し、質疑応答のみをオンラインで行うことになり、デジタルに慣れないため準備が大変で、なんとか完成したにもかかわらず、ミャンマーで2月1日国軍によるクーデターが勃発。また中止か!というところ、何とか無事に講義は開催されました。

講義後の感想

- ①自分が収録した講義をオンラインで見るのは退屈。
- ②人の表情を直接見ることができない質疑応答は、まるで落語の練習をしているようでした。

周産期医療研究所 所長 村田雄二

2021年4月

国際骨粗しょう症 財団から銅賞を授受

はじめに

国際骨粗鬆症財団(IOF)が行うベストプラクティスフレームワーク「骨粗鬆症による再骨折(骨折連鎖)予防の取り組みに対する認定制度」に、当院の活動が「銅賞(ブロンズ)」の認定を受けました。2021年6月現在、日本では36施設が認定を受けており、大阪府での認定は4施設目、堺市では初の認定となります。

取り組みについて

当院は大腿骨近位部骨折に対して再骨折(骨折連鎖)を予防する取り組みを実施しています。

大腿骨近位部骨折の多くは骨粗鬆症が原因で起こる骨折です。骨粗鬆症は「沈黙の疾患」と呼ばれ、自覚症状がなく、気づかないうちに骨が弱くなっています。骨が弱い状態は骨折や手術後も続くため、骨粗鬆症に対するケアを行わないと再骨折の危険性が高くなります。



銅賞を受賞



当院では医師、看護師、理学療法士など様々な職種が連携して、入院中から骨粗鬆症に対する検査、説明、治療を実施しています。また、転院先や介護施設、診療所と情報提供を通じた地域連携を重視し、骨粗鬆症ケアをシームレス(つなぎ目なく)に実施することを目指しています。

骨粗鬆症による骨折は健康寿命に影響を与える大きな骨折です。IOFが提唱している「STOP AT ONE(はじめの骨折を最後の骨折に)」がすべての方に提供できるように、今後も活動を継続します。

理学療法室 主任 田中暢一

51

リハビリ
テーション室
受付

Reception
Rehabilitation



2021年4月

特定行為研修 施設に認定!!

そもそも

特定行為とは?

本来、看護師は医師の指示のもと診療の補助として医療行為を実施しています。しかし、特定行為研修を修了した看護師は、医師の判断を待つことなく、**手順書***をもとに特定の医療行為を実施することができます。

手順書*とは

医師又は歯科医師が看護師に診療の補助を行わせるために、その指示として作成する文章であって、「看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲」、「診療の補助の内容」等が定められているものです。

団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けて、更なる在宅医療やチーム医療の推進、医師の業務負担軽減等を目的に、2015年10月より看護師特定行為研修制度がスタートしました。

特定行為は38行為指定されており、実践するための必要な高度知識と技術を指定機関で学び研修を修了することが必要になります。



気になる

研修内容について

特定行為を実践するためには、医学的知識や判断力が必要です。「臨床推論」や「臨床病態生理学」「臨床薬理学」など医学生が学ぶ内容に近い学習を行います。それぞれの特定行為の技術はシミュレーターで演習を行い、院内実習で指導医の指導のもと実践を行います。



もっと!

患者さんに充実した医療を

超高齢化社会の今、高度急性期病院から在宅などさまざまな場所での医療の充実化が求められています。患者さんのそばにいる看護師が、自らの判断でタイムリーに対応することができ、医師を待たずに患者さんに必要なケアが提供できる、高度な実践力を備えた看護師は、これから医療を支えていく役割として期待されています。



ベルランド総合病院で習得できる特定行為

呼吸器関連

(人工呼吸器設定/挿管チューブの位置調整)

動脈血ガス分析

(動脈穿刺法により採血/橈骨動脈ラインの確保)

栄養水分管理

(脱水症状に対する輸液補正)

精神神経症状に関する薬剤投与

(抗けいれん薬の投与)

栄養に関わるカテーテル管理

(CVカテーテル※の抜去/PICC※挿入)

術後疼痛管理関連

(硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与量調節)

CVカテーテル※ 中心静脈カテーテル PICC※:末梢挿入型中心静脈カテーテル

ICU科長:山岡 恭子

卵円孔閉鎖術

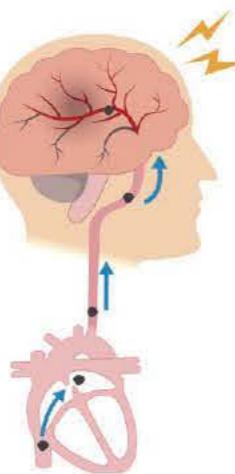
卵円孔とは (Patent Foramen Ovale)

心臓の右心房と左心房の間の壁(心房中隔)の中央に組織が折り重なり合うようにできた穴です。通常は出生後自然閉鎖しますが、成長後も閉じずに残っている場合があり、この状態を卵円孔開存といいます。成人の3~4人に1人は存在するといわれます。

卵円孔開存と脳梗塞の関係について

卵円孔開存は、通常は無症状で治療の必要がないとされていますが、咳や排便など腹圧がかかる時に、卵円孔を介し右心房から左心房に血液が流れ込む場合があります。

この際に、足などの静脈に出来た血栓が一緒に卵円孔を通して脳に達し脳梗塞を引き起こすことがあります。



このような脳梗塞を動脈硬化による脳梗塞と区別して奇異性脳梗塞栓と呼び全脳梗塞の5%程度で比較的若年者に多いとされています。

治療のメリット

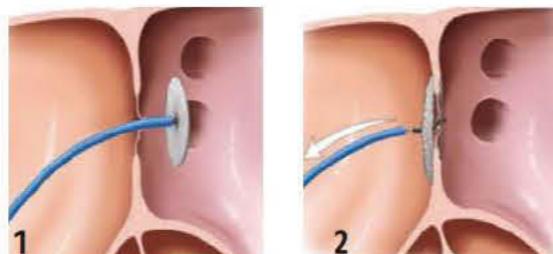
卵円孔開存を閉鎖することで、脳梗塞や全身の血栓塞栓症再発予防を期待するものです。奇異性脳梗塞栓の患者さんでは再発予防で血液をさらさらにする薬(バイアスピリン、ワーファリン、新規抗凝固薬など)を使用し血栓作成を予防する治療が行われていました。

卵円孔開存をカテーテル治療で閉鎖することで、上記内服薬単独による治療よりも脳梗塞の再発予防効果が高いことが臨床試験で証明されています。奇異性脳梗塞栓は診断に苦慮することが多く、当院では循環器内科のみならず脳神経内科、脳神経外科が「Brain Heart Team」を結成し各専門家の意見を交え、患者さんの病態・適応を議論した上で治療方針を検討していきます。

治療について

治療に用いる機器は医療用の布で覆われた丸い金属のメッシュのディスクを2枚重ねて構成されています。治療は手術室で全身麻酔下に行います。経食道心エコー(以下TEE)で心臓内の様子を観察しながら行います。

- ①右鎖骨部の静脈を穿刺した後に、カテーテルを挿入し心臓へ到達し、開存した卵円孔を通過させ左心房へ誘導します。
- ②治療に使用する機器をカテーテルを用いて誘導します。この時、機器はカテーテルの管の中に折りたたまれた状態で運ばれます。TEE、X線透視下で留置位置を確認し、まずは左房側からディスクを展開、次に右房側のディスクも展開し留置します。
- ③留置後はカテーテルを体外に抜き穿刺部を圧迫し終了します。手技時間は1~2時間程度で、入院期間は4~5日間ほどです。



循環器内科 医長 中達 誉

実習で学ぶ。

5月27日看護師さんと一緒に夜勤をするという経験をさせていただきました。

この実習では、薬の配合、配膳する薬のダブルチェック、服薬の確認、残薬チェックなど、普段あまり目にすることのなかった看護師さんの夜間業務を体験しました。いつもは、医師がマウスを数回クリックすればオーダーできる薬一つをとっても、患者さんに行き届くまでに看護師さんの多大な努力があることを学びました。



薬以外にも、食事の配膳、食事介助、患者の体位変換、おむつ交換、指示の確認、前兆なく起こるナースコールの嵐など、一晩でするには想像以上の仕事量で、翌日の僕はへとへとに疲れ切ってしまいました。

そのような多忙な中でも、看護師さんたちは、嫌な顔ひとつせず、僕たちに業務の説明をして下さり、患者さんの話を聞き、不安に寄り添い、優しく声かけをしている姿を見て、直接患者さんと触れ合う時間の長い看護師さんのおかげで、安心・安全な医療を提供することができていると感じました。

様々な職種の人の力があって医療が成り立っているということを心に留めて、これからも研修に取り組んでいきたいと思います。

臨床研修医 濱口英嗣



初期臨床研修
1年目の先生の



間
看
護
実
習

